

平成20年度 決算

平成20年度の一般会計歳入総額は、急激な景気後退の影響により、前年度に比べて25億8414万円減（6.9%減）の349億6161万円となりました。歳出は抑制を図り、執行率は90.6%、総額は前年度に比べて25億1274万円減（7.2%減）の321億9834万円となりました。この結果、実質収支額（繰越事業に充てる財源は除く）は24億3741万円となり、前年度に比べ4068万円の増（1.7%）となりました。

なお、一般会計と特別会計を合わせた歳入総額（水道事業会計を除く）は500億4004万円（前年度比11.4%減）、歳出総額465億3197万円（前年度比12.2%減）でした。

景気後退の中で、 歳出を抑えながらも、 重点事業を推進。

歳入のうち市税収入は、市民税が減少したため、前年度に比べて23億7399万円減（10.6%減）の200億3968万円となりました。こうした急激な歳入減の対策として、市債の発行額を前年度に比べて10億9800万円増（92.1%増）の22億9000万円としました。

このように、平成20年度は厳しい財政状況にありましたが、可能な限りの歳出削減を図りながら、市民の安心・安全対策や地域経済の活性化などの重点事業について、着実に実施しました。

※【市債】市が施設や道路などを整備するために、国や金融機関から借り入れるお金の返済義務のある「借金」

一般会計の歳入歳出決算

実施した主な重点事業 【市民協働の推進】市民協働まちづくり基金の創設／市民館整備 【子育て支援】第3子以降の3歳未満児の保育料を無料化／子ども医療費の無料化を中学校卒業まで拡大／妊婦検診公費負担の拡大 【学習環境の充実】学校教育活動コーディネーターの設置／スクールアシスタントの配置／教育活動支援員の増員

